

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析A(F3)
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「基礎数学」(森北出版)「線形代数」(森北出版)「基礎数学問題集」(森北出版)「ドリルと演習シリーズ 基礎数学」(電気書院)「線形代数問題集」(森北出版)「ドリルと演習シリーズ 線形代数」(電気書院)				
担当教員	松原 邦昭				
到達目標					
(1) 基礎的な数学概念の獲得と数式を用いた計算能力の獲得すること。 (2) 2次関数、指数・対数関数、三角関数などを中心とした基礎的な関数の性質、グラフ、特徴などを理解すること。 (3) ベクトルの定義と、成分表示について理解すること。 モデルコアカリキュラムに含まれる到達目標を含む。対応は数学科HPを参照。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	少し複雑な数式の計算ができる。	基本的な数式の計算ができる。	基本的な数式の計算ができない。		
評価項目2	2次関数、指数・対数関数が扱える	基本的な2次関数、指数・対数関数が扱える。	基本的な2次関数、指数・対数関数が扱えない。		
評価項目3	平面ベクトルを用いた計算ができる。	平面ベクトルの取り扱いができる。	平面ベクトルが理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学における基本的な概念の習得と、基礎的な計算技能の習熟を通して、数学的な見方や考え方ができる習慣を育てる。 (2) 微分積分の準備として、基本的な関数である2次関数、指数・対数関数および三角関数などの特徴と性質を理解する。また、簡単な分数関数や無理関数などを理解し、関数概念と逆関数の概念に接する。 (3) ベクトルの基本的概念を習得する。 (4) 問題演習を通じて理解を深め、技能の習得をはかる。				
授業の進め方・方法	(1) 講義と問題演習を適宜織りまぜて行う。 (2) グラフ電卓(TI-Nspire)を用いた、確認と検証、探究活動を随時行う。 (3) 後期にはプリントや問題集などを用い、前期基礎解析A,Bの復習と後期基礎解析A,Bの問題練習を行う。課題の提出を課す。				
注意点	定期試験を7割、レポートおよび演習、小テストを3割で評価する。定期試験の成績によっては追試験や課題を課すこともある。 学年成績60点以上を合格とする。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	TI-Nspireの使い方、複素数、数式の加法と減法	複素数の計算ができる。整式の加法・減法ができる。	
		2週	整式の乗法、因数分解	整式の乗法ができる。基礎的な因数分解ができる。	
		3週	整式の除法	整式の除法ができる。	
		4週	剰余の定理、因数定理	剰余の定理、因数定理を用いることができる。	
		5週	分数式の計算	分数式の計算ができる。	
		6週	2次方程式の解法、2次方程式の解と2次式の因数分解	2次方程式が解ける。2次方程式の解と2次式の因数分解が理解できている。	
		7週	3次方程式・4次方程式、いろいろな方程式	簡単な3次方程式・4次方程式と基礎的な他の方程式を解くことができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	2次関数、2次関数の最大値・最小値	2次関数の最大値・最小値が求めることができる。	
		10週	2次関数と2次方程式	2次関数と2次方程式との関連が理解できている。	
		11週	いろいろな2次関数のグラフ、2次関数と2次不等式	いろいろな2次関数のグラフを用いて2次関数と2次不等式が理解できている。	
		12週	関数、グラフの移動	関数、グラフの移動について理解できている。	
		13週	べき関数、分数関数	べき関数、分数関数について理解できている。	
		14週	無理関数、合成関数	無理関数、合成関数について理解できている。	
		15週	逆関数	逆関数とそのグラフについて理解できている。	
		16週	学習のまとめ		
後期	3rdQ	1週	累乗根、指数の拡張/前期の演習	累乗根、指数の拡張について理解できている。	
		2週	指数関数/前期の演習	指数関数について理解できている。	
		3週	指数関数と方程式・不等式/前期の演習	指数関数と指数方程式・不等式について理解できている。	
		4週	対数/前期の演習	対数とその性質について理解できている。	
		5週	対数関数/前期の演習	対数関数について理解できている。	
		6週	対数関数と方程式・不等式/前期の演習	対数関数と対数方程式・不等式について理解できている。	
		7週	常用対数/前期の演習	常用対数について理解できている。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	ベクトルとその演算/後期の演習	ベクトルの定義と相等、和が理解できている。	
		10週	ベクトルとその演算/後期の演習	ベクトルを用いた和・差・実数倍が計算できる。	
		11週	点の位置ベクトル、座標と距離/後期の演習	点の位置ベクトル、座標と距離が理解できている。	

	12週	ベクトルの成分表示と大きさ/後期の演習	ベクトルの成分表示と大きさが理解できている。
	13週	ベクトルの成分表示と大きさ/後期の演習	ベクトルの成分表示と大きさをを用いた計算ができる。
	14週	方向ベクトルと直線/後期の演習	方向ベクトルと直線が理解できている。
	15週	学習のまとめ	
	16週	学習のまとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	4	前1,前2,前3
			因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	4	前2	
			分数式の加減乗除の計算ができる。	4		
			実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	4		
			平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	4		
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	4		
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	4		
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	4		
			簡単な連立方程式を解くことができる。	4		
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	4		
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	4		
			1元連立1次不等式を解くことができる。	4		
			基本的な2次不等式を解くことができる。	4		
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	4		
			2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	4		
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4		
			簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	4		
			無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4		
			関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。	4		
			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	4		
指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4					
指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4					
対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	4					
対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4					
対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4					

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析A(F5)
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「基礎数学」(森北出版) 「線形代数」(森北出版) 「基礎数学問題集」(森北出版) 「ドリルと演習シリーズ 基礎数学」(電気書院) 「線形代数問題集」(森北出版) 「ドリルと演習シリーズ 線形代数」(電気書院)				
担当教員	坪川 武弘				
到達目標					
(1) 基礎的な数学概念の獲得と数式を用いた計算能力の獲得すること。 (2) 2次関数、指数・対数関数、三角関数などを中心とした基礎的な関数の性質、グラフ、特徴などを理解すること。 (3) ベクトルの定義と、成分表示について理解すること。 モデルコアカリキュラムに含まれる到達目標を含む。対応は数学科HPを参照。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	少し複雑な数式の計算ができる。	基本的な数式の計算ができる。	基本的な数式の計算ができない。		
評価項目2	2次関数、指数・対数関数が扱える	基本的な2次関数、指数・対数関数が扱える。	基本的な2次関数、指数・対数関数が扱えない。		
評価項目3	平面ベクトルを用いた計算ができる。	平面ベクトルの取り扱いができる。	平面ベクトルが理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学における基本的な概念の習得と、基礎的な計算技能の習熟を通して、数学的な見方や考え方ができる習慣を育てる。 (2) 微分積分の準備として、基本的な関数である2次関数、指数・対数関数および三角関数などの特徴と性質を理解する。また、簡単な分数関数や無理関数などを理解し、関数概念と逆関数の概念に接する。 (3) ベクトルの基本的概念を習得する。 (4) 問題演習を通じて理解を深め、技能の習得をはかる。				
授業の進め方・方法	(1) 講義と問題演習を適宜織りまぜて行う。 (2) グラフ電卓(TI-Nspire)を用いた、確認と検証、探究活動を随時行う。 (3) 後期にはプリントや問題集などを用い、前期基礎解析A,Bの復習と後期基礎解析A,Bの問題練習を行う。課題の提出を課す。				
注意点	定期試験を7割、レポートおよび演習、小テストを3割で評価する。定期試験の成績によっては追試験や課題を課すこともある。 学年成績60点以上を合格とする。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	TI-Nspireの使い方、複素数、数式の加法と減法	複素数の計算ができる。整式の加法・減法ができる。	
		2週	整式の乗法、因数分解	整式の乗法ができる。基礎的な因数分解ができる。	
		3週	整式の除法	整式の除法ができる。	
		4週	剰余の定理、因数定理	剰余の定理、因数定理を用いることができる。	
		5週	分数式の計算	分数式の計算ができる。	
		6週	2次方程式の解法、2次方程式の解と2次式の因数分解	2次方程式が解ける。2次方程式の解と2次式の因数分解が理解できている。	
		7週	3次方程式・4次方程式、いろいろな方程式	簡単な3次方程式・4次方程式と基礎的な他の方程式を解くことができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	2次関数、2次関数の最大値・最小値	2次関数の最大値・最小値が求めることができる。	
		10週	2次関数と2次方程式	2次関数と2次方程式との関連が理解できている。	
		11週	いろいろな2次関数のグラフ、2次関数と2次不等式	いろいろな2次関数のグラフを用いて2次関数と2次不等式が理解できている。	
		12週	関数、グラフの移動	関数、グラフの移動について理解できている。	
		13週	べき関数、分数関数	べき関数、分数関数について理解できている。	
		14週	無理関数、合成関数	無理関数、合成関数について理解できている。	
		15週	逆関数	逆関数とそのグラフについて理解できている。	
		16週	学習のまとめ		
後期	3rdQ	1週	累乗根、指数の拡張/前期の演習	累乗根、指数の拡張について理解できている。	
		2週	指数関数/前期の演習	指数関数について理解できている。	
		3週	指数関数と方程式・不等式/前期の演習	指数関数と指数方程式・不等式について理解できている。	
		4週	対数/前期の演習	対数とその性質について理解できている。	
		5週	対数関数/前期の演習	対数関数について理解できている。	
		6週	対数関数と方程式・不等式/前期の演習	対数関数と対数方程式・不等式について理解できている。	
		7週	常用対数/前期の演習	常用対数について理解できている。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	ベクトルとその演算/後期の演習	ベクトルの定義と相等、和が理解できている。	
		10週	ベクトルとその演算/後期の演習	ベクトルを用いた和・差・実数倍が計算できる。	
		11週	点の位置ベクトル、座標と距離/後期の演習	点の位置ベクトル、座標と距離が理解できている。	

	12週	ベクトルの成分表示と大きさ／後期の演習	ベクトルの成分表示と大きさが理解できている。
	13週	ベクトルの成分表示と大きさ／後期の演習	ベクトルの成分表示と大きさをを用いた計算ができる。
	14週	方向ベクトルと直線／後期の演習	方向ベクトルと直線が理解できている。
	15週	学習のまとめ	
	16週	学習のまとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	4	前1,前2,前3
			因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	4	前2
			分数式の加減乗除の計算ができる。	4	
			実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	4	
			平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	4	
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	4	
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	4	
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	4	
			簡単な連立方程式を解くことができる。	4	
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	4	
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	4	
			1元連立1次不等式を解くことができる。	4	
			基本的な2次不等式を解くことができる。	4	
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	4	
			2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	4	
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	
			簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	4	
			無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	
			関数のグラフと座標軸との共有点を求めることができる。	4	
			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	4	
指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4				
指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4				
対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	4				
対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4				
対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析B(F1)
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) 基礎数学問題集 (森北出版) 基礎数学 (電気書院)				
担当教員	井之上 和代,長水 壽寛				
到達目標					
(1) 基礎的な数学概念の獲得と、数式を用いた計算能力を習得すること。 (2) 集合と命題について理解し、簡単な等式や不等式の証明ができること。 (3) 三角比の定義、三角関数の性質やグラフの特徴を理解し、応用に用いることができること。 (4) 平面図形 (点、直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いることができること。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	等式・不等式の証明問題が解ける。		集合と命題について、基礎的な事項を理解している。		集合と命題について、基礎的な事項を理解していない。
評価項目 2	三角関数を用いた応用問題が解ける。		三角比・三角関数の値を求めることができる。基本的な三角関数のグラフがかけられる。		三角比・三角関数の基本的な概念を理解していない。
評価項目 3	平面図形の方程式を用いて、問題を解くことができる。		基本的な平面図形の方程式を理解している。		基本的な平面図形の方程式が分からない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学における基本的な概念と計算技法を習得し、数学的な見方や考え方ができる。 (2) 集合と命題を理解し、簡単な等式や不等式の証明ができる。 (3) 三角比、三角関数の特徴および性質を理解し、問題が解ける。 (4) 平面図形 (点と直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いて問題が解ける。				
授業の進め方・方法	前期は三角比、集合と命題を扱う。基礎解析Aの演習も行う。 後期には、三角関数、平面図形 (点と直線、2次曲線) の学習を行う。 講義と問題演習を中心とし、グラフ電卓 (TI-Nspire) を用いた確認と検証、探究活動を織りまぜて行う。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 三角比	鋭角の三角比の定義を理解する	
		2週	三角比 鈍角の三角比	0度から180度の三角比を求められる。	
		3週	正弦定理	正弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		4週	余弦定理	余弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		5週	三角形の面積	三角形の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。	
		6週	探究	グラフ電卓を用いて、規則性を見つけることができる。	
		7週	演習		
		8週	中間まとめ		
	2ndQ	9週	集合	集合、ベン図、共通部分と和集合、補集合と空集合、ド・モルガンの法則について理解する。	
		10週	集合と命題	命題、条件、反例、必要条件と十分条件、同値、対偶について理解する。	
		11週	恒等式	未定係数法の問題を解くことができる。簡単な部分分数分解ができる。	
		12週	等式・不等式の証明	簡単な等式・不等式の証明ができる。	
		13週	探究	関数を用いたグラフアートの作り方を理解する。	
		14週	演習		
		15週	まとめ		
		16週	前期期末試験		
後期	3rdQ	1週	三角関数	一般角について理解する。正弦と余弦の定義を理解する。円周上の点座標を正弦、余弦を用いて表すことができる。	
		2週	弧度法	弧度法について理解する。弧度法を用いて扇形の弧の長さや面積を求めることができる。弧度法を用いた三角関数の値を求めることができる。	
		3週	三角関数のグラフ (正弦関数・余弦関数)	正弦関数、余弦関数のグラフをかくことができる。振幅、周期について理解する。	
		4週	三角関数のグラフ (正接関数)	正接の定義を理解する。正接関数のグラフをかくことができる。	
		5週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の基本公式を用いて、と三角関数を含む等式の証明ができる。	
		6週	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	

4thQ	7週	三角関数の加法定理	加法定理、2倍角の公式、半角の公式を理解している。
	8週	中間まとめ	
	9週	積を和・差に直す公式 和・差を積に直す公式	積を和・差に、和・差を積に直す公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。
	10週	三角関数の合成	三角関数の合成を理解している。
	11週	平面図形 点と直線	2点間の距離を求めることができる。 内分点の公式を理解する。
	12週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
	13週	2次曲線 円の方程式、楕円の方程式	円の方程式、楕円の方程式を理解している。
	14週	双曲線の方程式、放物線の方程式	双曲線および放物線の方程式を理解している。
	15週	演習・まとめ	
16週	後期期末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	4	前2,後5
				角を弧度法で表現することができる。	4	後2
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	後3,後4
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	4	後7
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4	後6
				2点間の距離を求めることができる。	4	後11
				内分点の座標を求めることができる。	4	後11
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	4	後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	4	後12
簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	4	後13				

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析B(F2)
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) 基礎数学問題集 (森北出版) 基礎数学 (電気書院)				
担当教員	長水 壽寛,井之上 和代				
到達目標					
<p>(1) 基礎的な数学概念の獲得と、数式を用いた計算能力を習得すること。 (2) 集合と命題について理解し、簡単な等式や不等式の証明ができること。 (3) 三角比の定義、三角関数の性質やグラフの特徴を理解し、応用に用いることができること。 (4) 平面図形 (点、直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いることができること。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	等式・不等式の証明問題が解ける。		集合と命題について、基礎的な事項を理解している。		集合と命題について、基礎的な事項を理解していない。
評価項目 2	三角関数を用いた応用問題が解ける。		三角比・三角関数の値を求めることができる。基本的な三角関数のグラフがかけられる。		三角比・三角関数の基本的な概念を理解していない。
評価項目 3	平面図形の方程式を用いて、問題を解くことができる。		基本的な平面図形の方程式を理解している。		基本的な平面図形の方程式が分からない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>(1) 数学における基本的な概念と計算技法を習得し、数学的な見方や考え方ができる。 (2) 集合と命題を理解し、簡単な等式や不等式の証明ができる。 (3) 三角比、三角関数の特徴および性質を理解し、問題が解ける。 (4) 平面図形 (点と直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いて問題が解ける。</p>				
授業の進め方・方法	<p>前期は三角比、集合と命題を扱う。基礎解析Aの演習も行う。 後期には、三角関数、平面図形 (点と直線、2次曲線) の学習を行う。 講義と問題演習を中心とし、グラフ電卓 (TI-Nspire) を用いた確認と検証、探究活動を織りまぜて行う。</p>				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 三角比	鋭角の三角比の定義を理解する	
		2週	三角比 鈍角の三角比	0度から180度の三角比を求められる。	
		3週	正弦定理	正弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		4週	余弦定理	余弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		5週	三角形の面積	三角形の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。	
		6週	探究	グラフ電卓を用いて、規則性を見つけることができる。	
		7週	演習		
		8週	中間まとめ		
	2ndQ	9週	集合	集合、ベン図、共通部分と和集合、補集合と空集合、ド・モルガンの法則について理解する。	
		10週	集合と命題	命題、条件、反例、必要条件と十分条件、同値、対偶について理解する。	
		11週	恒等式	未定係数法の問題を解くことができる。簡単な部分分数分解ができる。	
		12週	等式・不等式の証明	簡単な等式・不等式の証明ができる。	
		13週	探究	関数を用いたグラフアートの作り方を理解する。	
		14週	演習		
		15週	まとめ		
		16週	前期期末試験		
後期	3rdQ	1週	三角関数	一般角について理解する。正弦と余弦の定義を理解する。円周上の点座標を正弦、余弦を用いて表すことができる。	
		2週	弧度法	弧度法について理解する。弧度法を用いて扇形の弧の長さや面積を求めることができる。弧度法を用いた三角関数の値を求めることができる。	
		3週	三角関数のグラフ (正弦関数・余弦関数)	正弦関数、余弦関数のグラフをかくことができる。振幅、周期について理解する。	
		4週	三角関数のグラフ (正接関数)	正接の定義を理解する。正接関数のグラフをかくことができる。	
		5週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の基本公式を用いて、と三角関数を含む等式の証明ができる。	
		6週	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	

4thQ	7週	三角関数の加法定理	加法定理、2倍角の公式、半角の公式を理解している。
	8週	中間まとめ	
	9週	積を和・差に直す公式 和・差を積に直す公式	積を和・差に、和・差を積に直す公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。
	10週	三角関数の合成	三角関数の合成を理解している。
	11週	平面図形 点と直線	2点間の距離を求めることができる。 内分点の公式を理解する。
	12週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
	13週	2次曲線 円の方程式、楕円の方程式	円の方程式、楕円の方程式を理解している。
	14週	双曲線の方程式、放物線の方程式	双曲線および放物線の方程式を理解している。
	15週	演習・まとめ	
	16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	4	前2,後5
				角を弧度法で表現することができる。	4	後2
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	後3,後4
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	4	後7
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4	後6
				2点間の距離を求めることができる。	4	後11
				内分点の座標を求めることができる。	4	後11
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	4	後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	4	後12
簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	4	後13				

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析B(F3)
科目基礎情報					
科目番号	0008	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	3		
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) 基礎数学問題集 (森北出版) 基礎数学 (電気書院)				
担当教員	井之上 和代, 中谷 実伸				
到達目標					
(1) 基礎的な数学概念の獲得と、数式を用いた計算能力を習得すること。 (2) 集合と命題について理解し、簡単な等式や不等式の証明ができること。 (3) 三角比の定義、三角関数の性質やグラフの特徴を理解し、応用に用いることができること。 (4) 平面図形 (点、直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いることができること。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1	等式・不等式の証明問題が解ける。	集合と命題について、基礎的な事項を理解している。	集合と命題について、基礎的な事項を理解していない。		
評価項目 2	三角関数を用いた応用問題が解ける。	三角比・三角関数の値を求めることができる。基本的な三角関数のグラフがかけられる。	三角比・三角関数の基本的な概念を理解していない。		
評価項目 3	平面図形の方程式を用いて、問題を解くことができる。	基本的な平面図形の方程式を理解している。	基本的な平面図形の方程式が分からない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学における基本的な概念と計算技法を習得し、数学的な見方や考え方ができる。 (2) 集合と命題を理解し、簡単な等式や不等式の証明ができる。 (3) 三角比、三角関数の特徴および性質を理解し、問題が解ける。 (4) 平面図形 (点と直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いて問題が解ける。				
授業の進め方・方法	前期は三角比、集合と命題を扱う。基礎解析Aの演習も行う。 後期には、三角関数、平面図形 (点と直線、2次曲線) の学習を行う。 講義と問題演習を中心とし、グラフ電卓 (TI-Nspire) を用いた確認と検証、探究活動を織りまぜて行う。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 三角比	鋭角の三角比の定義を理解する	
		2週	三角比 鈍角の三角比	0度から180度の三角比を求められる。	
		3週	正弦定理	正弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		4週	余弦定理	余弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		5週	三角形の面積	三角形の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。	
		6週	探究	グラフ電卓を用いて、規則性を見つけることができる。	
		7週	演習		
		8週	中間まとめ		
	2ndQ	9週	集合	集合、ベン図、共通部分と和集合、補集合と空集合、ド・モルガンの法則について理解する。	
		10週	集合と命題	命題、条件、反例、必要条件と十分条件、同値、対偶について理解する。	
		11週	恒等式	未定係数法の問題を解くことができる。簡単な部分分数分解ができる。	
		12週	等式・不等式の証明	簡単な等式・不等式の証明ができる。	
		13週	探究	関数を用いたグラフアートの作り方を理解する。	
		14週	演習		
		15週	まとめ		
		16週	前期期末試験		
後期	3rdQ	1週	三角関数	一般角について理解する。正弦と余弦の定義を理解する。円周上の点座標を正弦、余弦を用いて表すことができる。	
		2週	弧度法	弧度法について理解する。弧度法を用いて扇形の弧の長さや面積を求めることができる。弧度法を用いた三角関数の値を求めることができる。	
		3週	三角関数のグラフ (正弦関数・余弦関数)	正弦関数、余弦関数のグラフをかくことができる。振幅、周期について理解する。	
		4週	三角関数のグラフ (正接関数)	正接の定義を理解する。正接関数のグラフをかくことができる。	
		5週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の基本公式を用いて、と三角関数を含む等式の証明ができる。	
		6週	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	

4thQ	7週	三角関数の加法定理	加法定理、2倍角の公式、半角の公式を理解している。
	8週	中間まとめ	
	9週	積を和・差に直す公式 和・差を積に直す公式	積を和・差に、和・差を積に直す公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。
	10週	三角関数の合成	三角関数の合成を理解している。
	11週	平面図形 点と直線	2点間の距離を求めることができる。 内分点の公式を理解する。
	12週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
	13週	2次曲線 円の方程式、楕円の方程式	円の方程式、楕円の方程式を理解している。
	14週	双曲線の方程式、放物線の方程式	双曲線および放物線の方程式を理解している。
	15週	演習・まとめ	
	16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	4	前2,後5
				角を弧度法で表現することができる。	4	後2
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	後3,後4
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	4	後7
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4	後6
				2点間の距離を求めることができる。	4	後11
				内分点の座標を求めることができる。	4	後11
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	4	後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	4	後12
簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	4	後13				

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析B(F4)
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) 基礎数学問題集 (森北出版) 基礎数学 (電気書院)				
担当教員	井之上 和代, 朝倉 相一				
到達目標					
<p>(1) 基礎的な数学概念の獲得と、数式を用いた計算能力を習得すること。 (2) 集合と命題について理解し、簡単な等式や不等式の証明ができること。 (3) 三角比の定義、三角関数の性質やグラフの特徴を理解し、応用に用いることができること。 (4) 平面図形 (点、直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いることができること。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	等式・不等式の証明問題が解ける。		集合と命題について、基礎的な事項を理解している。		集合と命題について、基礎的な事項を理解していない。
評価項目 2	三角関数を用いた応用問題が解ける。		三角比・三角関数の値を求めることができる。基本的な三角関数のグラフがかけられる。		三角比・三角関数の基本的な概念を理解していない。
評価項目 3	平面図形の方程式を用いて、問題を解くことができる。		基本的な平面図形の方程式を理解している。		基本的な平面図形の方程式が分からない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>(1) 数学における基本的な概念と計算技法を習得し、数学的な見方や考え方ができる。 (2) 集合と命題を理解し、簡単な等式や不等式の証明ができる。 (3) 三角比、三角関数の特徴および性質を理解し、問題が解ける。 (4) 平面図形 (点と直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いて問題が解ける。</p>				
授業の進め方・方法	<p>前期は三角比、集合と命題を扱う。基礎解析Aの演習も行う。 後期には、三角関数、平面図形 (点と直線、2次曲線) の学習を行う。 講義と問題演習を中心とし、グラフ電卓 (TI-Nspire) を用いた確認と検証、探究活動を織りまぜて行う。</p>				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 三角比	鋭角の三角比の定義を理解する	
		2週	三角比 鈍角の三角比	0度から180度の三角比を求められる。	
		3週	正弦定理	正弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		4週	余弦定理	余弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		5週	三角形の面積	三角形の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。	
		6週	探究	グラフ電卓を用いて、規則性を見つけることができる。	
		7週	演習		
		8週	中間まとめ		
	2ndQ	9週	集合	集合、ベン図、共通部分と和集合、補集合と空集合、ド・モルガンの法則について理解する。	
		10週	集合と命題	命題、条件、反例、必要条件と十分条件、同値、対偶について理解する。	
		11週	恒等式	未定係数法の問題を解くことができる。簡単な部分分数分解ができる。	
		12週	等式・不等式の証明	簡単な等式・不等式の証明ができる。	
		13週	探究	関数を用いたグラフアートの作り方を理解する。	
		14週	演習		
		15週	まとめ		
		16週	前期期末試験		
後期	3rdQ	1週	三角関数	一般角について理解する。正弦と余弦の定義を理解する。円周上の点座標を正弦、余弦を用いて表すことができる。	
		2週	弧度法	弧度法について理解する。弧度法を用いて扇形の弧の長さや面積を求めることができる。弧度法を用いた三角関数の値を求めることができる。	
		3週	三角関数のグラフ (正弦関数・余弦関数)	正弦関数、余弦関数のグラフをかくことができる。振幅、周期について理解する。	
		4週	三角関数のグラフ (正接関数)	正接の定義を理解する。正接関数のグラフをかくことができる。	
		5週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の基本公式を用いて、と三角関数を含む等式の証明ができる。	
		6週	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	

4thQ	7週	三角関数の加法定理	加法定理、2倍角の公式、半角の公式を理解している。
	8週	中間まとめ	
	9週	積を和・差に直す公式 和・差を積に直す公式	積を和・差に、和・差を積に直す公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。
	10週	三角関数の合成	三角関数の合成を理解している。
	11週	平面図形 点と直線	2点間の距離を求めることができる。 内分点の公式を理解する。
	12週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
	13週	2次曲線 円の方程式、楕円の方程式	円の方程式、楕円の方程式を理解している。
	14週	双曲線の方程式、放物線の方程式	双曲線および放物線の方程式を理解している。
	15週	演習・まとめ	
	16週	後期期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	4	前2,後5
				角を弧度法で表現することができる。	4	後2
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	後3,後4
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	4	後7
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4	後6
				2点間の距離を求めることができる。	4	後11
				内分点の座標を求めることができる。	4	後11
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	4	後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	4	後12
簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	4	後13				

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎解析B(F5)
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) 基礎数学問題集 (森北出版) 基礎数学 (電気書院)				
担当教員	長水 壽寛, 柳原 祐治				
到達目標					
(1) 基礎的な数学概念の獲得と、数式を用いた計算能力を習得すること。 (2) 集合と命題について理解し、簡単な等式や不等式の証明ができること。 (3) 三角比の定義、三角関数の性質やグラフの特徴を理解し、応用に用いることができること。 (4) 平面図形 (点、直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いることができること。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	等式・不等式の証明問題が解ける。		集合と命題について、基礎的な事項を理解している。		集合と命題について、基礎的な事項を理解していない。
評価項目 2	三角関数を用いた応用問題が解ける。		三角比・三角関数の値を求めることができる。基本的な三角関数のグラフがかけられる。		三角比・三角関数の基本的な概念を理解していない。
評価項目 3	平面図形の方程式を用いて、問題を解くことができる。		基本的な平面図形の方程式を理解している。		基本的な平面図形の方程式が分からない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 数学における基本的な概念と計算技法を習得し、数学的な見方や考え方ができる。 (2) 集合と命題を理解し、簡単な等式や不等式の証明ができる。 (3) 三角比、三角関数の特徴および性質を理解し、問題が解ける。 (4) 平面図形 (点と直線、2次曲線) の方程式を理解し、方程式を用いて問題が解ける。				
授業の進め方・方法	前期は三角比、集合と命題を扱う。基礎解析Aの演習も行う。 後期には、三角関数、平面図形 (点と直線、2次曲線) の学習を行う。 講義と問題演習を中心とし、グラフ電卓 (TI-Nspire) を用いた確認と検証、探究活動を織りまぜて行う。				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 三角比	鋭角の三角比の定義を理解する	
		2週	三角比 鈍角の三角比	0度から180度の三角比を求められる。	
		3週	正弦定理	正弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		4週	余弦定理	余弦定理を理解し、問題を解くことができる。	
		5週	三角形の面積	三角形の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。	
		6週	探究	グラフ電卓を用いて、規則性を見つけることができる。	
		7週	演習		
		8週	中間まとめ		
	2ndQ	9週	集合	集合、ベン図、共通部分と和集合、補集合と空集合、ド・モルガンの法則について理解する。	
		10週	集合と命題	命題、条件、反例、必要条件と十分条件、同値、対偶について理解する。	
		11週	恒等式	未定係数法の問題を解くことができる。簡単な部分分数分解ができる。	
		12週	等式・不等式の証明	簡単な等式・不等式の証明ができる。	
		13週	探究	関数を用いたグラフアートの作り方を理解する。	
		14週	演習		
		15週	まとめ		
		16週	前期期末試験		
後期	3rdQ	1週	三角関数	一般角について理解する。正弦と余弦の定義を理解する。円周上の点座標を正弦、余弦を用いて表すことができる。	
		2週	弧度法	弧度法について理解する。弧度法を用いて扇形の弧の長さや面積を求めることができる。弧度法を用いた三角関数の値を求めることができる。	
		3週	三角関数のグラフ (正弦関数・余弦関数)	正弦関数、余弦関数のグラフをかくことができる。振幅、周期について理解する。	
		4週	三角関数のグラフ (正接関数)	正接の定義を理解する。正接関数のグラフをかくことができる。	
		5週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の基本公式を用いて、と三角関数を含む等式の証明ができる。	
		6週	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	

4thQ	7週	三角関数の加法定理	加法定理、2倍角の公式、半角の公式を理解している。
	8週	中間まとめ	
	9週	積を和・差に直す公式 和・差を積に直す公式	積を和・差に、和・差を積に直す公式を用いて、三角関数の値を求めることができる。
	10週	三角関数の合成	三角関数の合成を理解している。
	11週	平面図形 点と直線	2点間の距離を求めることができる。 内分点の公式を理解する。
	12週	直線の方程式	直線の方程式を求めることができる。
	13週	2次曲線 円の方程式、楕円の方程式	円の方程式、楕円の方程式を理解している。
	14週	双曲線の方程式、放物線の方程式	双曲線および放物線の方程式を理解している。
	15週	演習・まとめ	
16週	後期期末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。	4	前2,後5
				角を弧度法で表現することができる。	4	後2
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	4	後3,後4
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	4	後7
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	4	後6
				2点間の距離を求めることができる。	4	後11
				内分点の座標を求めることができる。	4	後11
				通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。	4	後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	4	後12
簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	4	後13				

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地理(F2)	
科目基礎情報						
科目番号	0042	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)	対象学年	1			
開設期	通年	週時間数	2			
教科書/教材	「新詳地理B」 (帝国書院) , 「地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景」 (帝国書院)					
担当教員	佐藤 勇一					
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や社会環境が正しく理解されている。 ・世界の資源、産業の分布や動向についてその概要を説明できる。 ・生活文化の多様性を理解するとともに、現代社会の特質や課題について地理的な観点から考察できる。 						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	「世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向を、自然環境及び社会環境と関連付けて理解させ、世界と日本を比較し多面的に考察させることによって、地理的な見方や考え方を培い国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という地理B目標に添いながら、自然環境と社会環境の中から工学と関わりの多い分野を選んで学習させる。世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について地理的観点から展望する基礎をつくるために、地形環境、気候環境、資源、産業、工業地域の形成などについて学習させるとともに、人種、民族、宗教、生活文化の多様性を理解させ、異なる文化・社会を尊重する態度を養う。					
授業の進め方・方法	主に教科書と地図帳、課題自習プリントを用いて学生に主体的に学習させる。必要に応じて板書やプリント、その他の形式により解説をする。その際、学生にノートをとらせ学習内容を整理させる。授業中に複数回の課題自習プリント (その他、小テスト、感想文課題など) を行う。ノート (および地図帳) の提出も義務づける。					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	はじめに 授業の説明 資源と産業 工業	工業の分類について理解する		
		2週	資源と産業	国際分業 世界の工業について理解する		
		3週	資源と産業	産業と交通・通信 グローバル化について理解する		
		4週	資源と産業	資源・エネルギー問題 について理解する		
		5週	生活文化、民族・宗教	民族・領土問題 について理解する		
		6週	生活文化、民族・宗教	民族・領土問題 について理解する		
		7週	生活文化、民族・宗教	民族と宗教		
		8週	中間まとめ	前期中間まとめ		
	2ndQ	9週	人口、村落・都市	人口問題 国際的な人口の移動		
		10週	人口、村落・都市	都市・居住問題 都市の機能		
		11週	人口、村落・都市	都市の再開発 村落と都市		
		12週	資源と産業	環境問題		
		13週	資源と産業	食糧問題 世界の農林水産業		
		14週	資源と産業	世界の農林水産業		
		15週	資源と産業	農業の近代化、国際化と課題		
		16週				
後期	3rdQ	1週	現代世界の諸地域 自然環境	世界の衣食住 世界の気候		
		2週	自然環境	世界の気候 植生・土壌		
		3週	自然環境	世界の地形		
		4週	自然環境	日本の自然の特徴と人々の生活		
		5週	現代世界の諸地域	世界の地域区分 東アジア		
		6週	現代世界の諸地域	東アジア 東南アジア		
		7週	中間まとめ	後期中間まとめ		
		8週	現代世界の諸地域	南アジア 西アジア		
	4thQ	9週	現代世界の諸地域	中央アジア アフリカ		
		10週	現代世界の諸地域	アメリカ		
		11週	現代世界の諸地域	ヨーロッパ		
		12週	さまざまな地図と地理的技能	地図の種類とその利用		
		13週	さまざまな地図と地理的技能	地図の種類とその利用		
		14週	まとめ	試験準備		
		15週	試験について			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動 (農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等) などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	4	前1,前2,前3,前10,前14

			人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	4	前4,前14,後2,後3,後12,後13
			社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	前4,前10,前11
			日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	4	前7,後1,後2,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11
			国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	4	前5,前6
			文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	4	前7,前9,後1,後6,後8,後9,後10,後11
		地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前4,前5,前6
			環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	前4,前9,前12,前13

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	0	0	0	0	70	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	70	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史(F1)
科目基礎情報					
科目番号	0046	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	手嶋 泰伸				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	授業内容を正しく記載したうえで、その論理展開にも工夫がみられる。	授業内容を正しくレポートに記載することができる。	授業内容を正しくレポートに記載することができない。		
評価項目2	他者の意見を適切に把握したうえで、合理的かつ建設的な意見を述べることができる。	他者の意見を適切に把握することができる。	議論に主体的に参加することができない。		
評価項目3	適切に調査方法を選択したうえで、適切なまとめを行なうことができる。	適切に調査方法を選択して、レポートを提出することができる。	適切な調査方法の選択と、それによる調査内容のまとめができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会的な諸問題を主体的に解決できる技術者となるために、現在の日本社会の諸問題を歴史的に認識できるようになる。特に、日本の近代化及び近代性の特徴を理解し、それらがどのように現在の社会の諸問題を形作っているのかについて、歴史的に説明できるようにする。				
授業の進め方・方法	近現代の日本の政治・経済・外交を概観し、そのうえで現在の日本社会を歴史的に解説する。授業は一定程度の時期ごとに、分野別に概説する。前期は戦前・戦中期を、後期は戦後期を扱う。なお、授業は毎時間配布されるプリントで行う。教科書は予習・復習に用いること。				
注意点	定期試験は行わず、課題で評価する。すべての課題を提出しなければ合格とはならない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス 高専で学ぶ歴史		
		2週	江戸幕府の終焉	明治維新期の政治経済政策の背景が理解できる	
		3週	明治維新の政治・経済政策	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴が理解できる	
		4週	立憲政治の開始	近代日本の政治体制の特質について理解できる	
		5週	日清・日露戦争	政党政治の発展過程について理解できる	
		6週	不平等条約の改正/韓国併合	明治期の国際関係について理解できる	
		7週	日本の産業革命	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴理解できる	
		8週	前期中間まとめ 日本の近代化の始まり		
	2ndQ	9週	第1次世界大戦と国際協調の時代	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		10週	日中戦争まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		11週	日中戦争から敗戦まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		12週	歴史で議論をする	歴史で議論が実践できる	
		13週	ドキュメンタリーの鑑賞法	ドキュメンタリーを鑑賞することができる	
		14週	読書による自学自習法	要約を行うことができる	
		15週	近代日本の意味		
		16週			
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス 「現在」への道のり		
		2週	占領期の政治	戦後期の政治の背景について理解できる	
		3週	日本国憲法体制と55年体制	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		4週	自民党による国家意思決定システム	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		5週	自民党政権の安定	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		6週	高度経済成長	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 環境問題が生じることになる経緯を位階できる	
		7週	自民党政権の動揺と55年体制の崩壊	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		8週	後期中間まとめ 現代社会のしくみ		
	4thQ	9週	1990年代以降の特徴～バブル崩壊/情報通信技術の発達とグローバル化～	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 地球的な経済格差の生じた経緯を理解できる	
		10週	政権の流動化と国内改革の時代	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		11週	近年の政治・経済状況	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		12週	英語による歴史学学習法①	英語による歴史学習方法を理解できる	
		13週	英語による歴史学学習法②	英語による歴史学習方法を理解できる	
		14週	「現在」を歴史的に考える		

		15週	歴史と人文社会科学の意味	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	4	前3,前7
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	4	前7
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	前7
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4	前3,後6,後9
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後3,後4,後5,後6,後7,後9
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4	前7,後9
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4	前7
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	後6,後9,後10,後11
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後9,後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史(F2)
科目基礎情報					
科目番号	0047	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	手嶋 泰伸				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	授業内容を正しく記載したうえで、その論理展開にも工夫がみられる。	授業内容を正しくレポートに記載することができる。	授業内容を正しくレポートに記載することができない。		
評価項目2	他者の意見を適切に把握したうえで、合理的かつ建設的な意見を述べることができる。	他者の意見を適切に把握することができる。	議論に主体的に参加することができない。		
評価項目3	適切に調査方法を選択したうえで、適切なまとめを行なうことができる。	適切に調査方法を選択して、レポートを提出することができる。	適切な調査方法の選択と、それによる調査内容のまとめができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会的な諸問題を主体的に解決できる技術者となるために、現在の日本社会の諸問題を歴史的に認識できるようになる。特に、日本の近代化及び近代性の特徴を理解し、それらがどのように現在の社会の諸問題を形作っているのかについて、歴史的に説明できるようにする。				
授業の進め方・方法	近現代の日本の政治・経済・外交を概観し、そのうえで現在の日本社会を歴史的に解説する。授業は一定程度の時期ごとに、分野別に概説する。前期は戦前・戦中期を、後期は戦後期を扱う。なお、授業は毎時間配布されるプリントで行う。教科書は予習・復習に用いること。				
注意点	定期試験は行わず、課題で評価する。すべての課題を提出しなければ合格とはならない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス 高専で学ぶ歴史		
		2週	江戸幕府の終焉	明治維新期の政治経済政策の背景が理解できる	
		3週	明治維新の政治・経済政策	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴が理解できる	
		4週	立憲政治の開始	近代日本の政治体制の特質について理解できる	
		5週	日清・日露戦争	政党政治の発展過程について理解できる	
		6週	不平等条約の改正/韓国併合	明治期の国際関係について理解できる	
		7週	日本の産業革命	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴理解できる	
		8週	前期中間まとめ 日本の近代化の始まり		
	2ndQ	9週	第1次世界大戦と国際協調の時代	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		10週	日中戦争まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		11週	日中戦争から敗戦まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		12週	歴史で議論をする	歴史で議論が実践できる	
		13週	ドキュメンタリーの鑑賞法	ドキュメンタリーを鑑賞することができる	
		14週	読書による自学自習法	要約を行うことができる	
		15週	近代日本の意味		
		16週			
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス 「現在」への道のり		
		2週	占領期の政治	戦後期の政治の背景について理解できる	
		3週	日本国憲法体制と55年体制	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		4週	自民党による国家意思決定システム	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		5週	自民党政権の安定	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		6週	高度経済成長	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 環境問題が生じることになる経緯を位階できる	
		7週	自民党政権の動揺と55年体制の崩壊	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		8週	後期中間まとめ 現代社会のしくみ		
	4thQ	9週	1990年代以降の特徴～バブル崩壊/情報通信技術の発達とグローバル化～	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 地球的な経済格差の生じた経緯を理解できる	
		10週	政権の流動化と国内改革の時代	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		11週	近年の政治・経済状況	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		12週	英語による歴史学学習法①	英語による歴史学習方法を理解できる	
		13週	英語による歴史学学習法②	英語による歴史学習方法を理解できる	
		14週	「現在」を歴史的に考える		

		15週	歴史と人文社会科学の意味	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	4	前3,前7
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	4	前7
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	前7
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4	前3,後6,後9
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後3,後4,後5,後6,後7,後9
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4	前7,後9
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4	前7
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	後6,後9,後10,後11
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後9,後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史(F3)
科目基礎情報					
科目番号	0048	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	手嶋 泰伸				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	授業内容を正しく記載したうえで、その論理展開にも工夫がみられる。	授業内容を正しくレポートに記載することができる。	授業内容を正しくレポートに記載することができない。		
評価項目2	他者の意見を適切に把握したうえで、合理的かつ建設的な意見を述べることができる。	他者の意見を適切に把握することができる。	議論に主体的に参加することができない。		
評価項目3	適切に調査方法を選択したうえで、適切なまとめを行なうことができる。	適切に調査方法を選択して、レポートを提出することができる。	適切な調査方法の選択と、それによる調査内容のまとめができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会的な諸問題を主体的に解決できる技術者となるために、現在の日本社会の諸問題を歴史的に認識できるようになる。特に、日本の近代化及び近代性の特徴を理解し、それらがどのように現在の社会の諸問題を形作っているのかについて、歴史的に説明できるようにする。				
授業の進め方・方法	近現代の日本の政治・経済・外交を概観し、そのうえで現在の日本社会を歴史的に解説する。授業は一定程度の時期ごとに、分野別に概説する。前期は戦前・戦中期を、後期は戦後期を扱う。なお、授業は毎時間配布されるプリントで行う。教科書は予習・復習に用いること。				
注意点	定期試験は行わず、課題で評価する。すべての課題を提出しなければ合格とはならない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス 高専で学ぶ歴史		
		2週	江戸幕府の終焉	明治維新期の政治経済政策の背景が理解できる	
		3週	明治維新の政治・経済政策	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴が理解できる	
		4週	立憲政治の開始	近代日本の政治体制の特質について理解できる	
		5週	日清・日露戦争	政党政治の発展過程について理解できる	
		6週	不平等条約の改正/韓国併合	明治期の国際関係について理解できる	
		7週	日本の産業革命	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴理解できる	
		8週	前期中間まとめ 日本の近代化の始まり		
	2ndQ	9週	第1次世界大戦と国際協調の時代	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		10週	日中戦争まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		11週	日中戦争から敗戦まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		12週	歴史で議論をする	歴史で議論が実践できる	
		13週	ドキュメンタリーの鑑賞法	ドキュメンタリーを鑑賞することができる	
		14週	読書による自学自習法	要約を行うことができる	
		15週	近代日本の意味		
		16週			
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス 「現在」への道のり		
		2週	占領期の政治	戦後期の政治の背景について理解できる	
		3週	日本国憲法体制と55年体制	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		4週	自民党による国家意思決定システム	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		5週	自民党政権の安定	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		6週	高度経済成長	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 環境問題が生じることになる経緯を位階できる	
		7週	自民党政権の動揺と55年体制の崩壊	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		8週	後期中間まとめ 現代社会のしくみ		
	4thQ	9週	1990年代以降の特徴～バブル崩壊/情報通信技術の発達とグローバル化～	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 地球的な経済格差の生じた経緯を理解できる	
		10週	政権の流動化と国内改革の時代	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		11週	近年の政治・経済状況	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		12週	英語による歴史学学習法①	英語による歴史学習方法を理解できる	
		13週	英語による歴史学学習法②	英語による歴史学習方法を理解できる	
		14週	「現在」を歴史的に考える		

		15週	歴史と人文社会科学の意味	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	4	前3,前7
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	4	前7
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	前7
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4	前3,後6,後9
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後3,後4,後5,後6,後7,後9
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4	前7,後9
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4	前7
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	後6,後9,後10,後11
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後9,後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史(F4)
科目基礎情報					
科目番号	0049	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	手嶋 泰伸				
到達目標					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	授業内容を正しく記載したうえで、その論理展開にも工夫がみられる。	授業内容を正しくレポートに記載することができる。	授業内容を正しくレポートに記載することができない。		
評価項目2	他者の意見を適切に把握したうえで、合理的かつ建設的な意見を述べることができる。	他者の意見を適切に把握することができる。	議論に主体的に参加することができない。		
評価項目3	適切に調査方法を選択したうえで、適切なまとめを行なうことができる。	適切に調査方法を選択して、レポートを提出することができる。	適切な調査方法の選択と、それによる調査内容のまとめができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会的な諸問題を主体的に解決できる技術者となるために、現在の日本社会の諸問題を歴史的に認識できるようになる。特に、日本の近代化及び近代性の特徴を理解し、それらがどのように現在の社会の諸問題を形作っているのかについて、歴史的に説明できるようにする。				
授業の進め方・方法	近現代の日本の政治・経済・外交を概観し、そのうえで現在の日本社会を歴史的に解説する。授業は一定程度の時期ごとに、分野別に概説する。前期は戦前・戦中期を、後期は戦後期を扱う。なお、授業は毎時間配布されるプリントで行う。教科書は予習・復習に用いること。				
注意点	定期試験は行わず、課題で評価する。すべての課題を提出しなければ合格とはならない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス 高専で学ぶ歴史		
		2週	江戸幕府の終焉	明治維新期の政治経済政策の背景が理解できる	
		3週	明治維新の政治・経済政策	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴が理解できる	
		4週	立憲政治の開始	近代日本の政治体制の特質について理解できる	
		5週	日清・日露戦争	政党政治の発展過程について理解できる	
		6週	不平等条約の改正/韓国併合	明治期の国際関係について理解できる	
		7週	日本の産業革命	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴理解できる	
		8週	前期中間まとめ 日本の近代化の始まり		
	2ndQ	9週	第1次世界大戦と国際協調の時代	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		10週	日中戦争まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		11週	日中戦争から敗戦まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		12週	歴史で議論をする	歴史で議論が実践できる	
		13週	ドキュメンタリーの鑑賞法	ドキュメンタリーを鑑賞することができる	
		14週	読書による自学自習法	要約を行うことができる	
		15週	近代日本の意味		
		16週			
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス 「現在」への道のり		
		2週	占領期の政治	戦後期の政治の背景について理解できる	
		3週	日本国憲法体制と55年体制	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		4週	自民党による国家意思決定システム	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		5週	自民党政権の安定	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		6週	高度経済成長	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 環境問題が生じることになる経緯を位階できる	
		7週	自民党政権の動揺と55年体制の崩壊	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		8週	後期中間まとめ 現代社会のしくみ		
	4thQ	9週	1990年代以降の特徴～バブル崩壊/情報通信技術の発達とグローバル化～	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 地球的な経済格差の生じた経緯を理解できる	
		10週	政権の流動化と国内改革の時代	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		11週	近年の政治・経済状況	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		12週	英語による歴史学学習法①	英語による歴史学習方法を理解できる	
		13週	英語による歴史学学習法②	英語による歴史学習方法を理解できる	
		14週	「現在」を歴史的に考える		

		15週	歴史と人文社会科学の意味	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	4	前3,前7
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	4	前7
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	前7
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4	前3,後6,後9
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後3,後4,後5,後6,後7,後9
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4	前7,後9
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4	前7
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	後6,後9,後10,後11
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後9,後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福井工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史(F5)
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	手嶋 泰伸				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	授業内容を正しく記載したうえで、その論理展開にも工夫がみられる。		授業内容を正しくレポートに記載することができる。		授業内容を正しくレポートに記載することができない。
評価項目2	他者の意見を適切に把握したうえで、合理的かつ建設的な意見を述べることができる。		他者の意見を適切に把握することができる。		議論に主体的に参加することができない。
評価項目3	適切に調査方法を選択したうえで、適切なまとめを行なうことができる。		適切に調査方法を選択して、レポートを提出することができる。		適切な調査方法の選択と、それによる調査内容のまとめができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会的な諸問題を主体的に解決できる技術者となるために、現在の日本社会の諸問題を歴史的に認識できるようになる。特に、日本の近代化及び近代性の特徴を理解し、それらがどのように現在の社会の諸問題を形作っているのかについて、歴史的に説明できるようにする。				
授業の進め方・方法	近現代の日本の政治・経済・外交を概観し、そのうえで現在の日本社会を歴史的に解説する。授業は一定程度の時期ごとに、分野別に概説する。前期は戦前・戦中期を、後期は戦後期を扱う。なお、授業は毎時間配布されるプリントで行う。教科書は予習・復習に用いること。				
注意点	定期試験は行わず、課題で評価する。すべての課題を提出しなければ合格とはならない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス 高専で学ぶ歴史		
		2週	江戸幕府の終焉	明治維新期の政治経済政策の背景が理解できる	
		3週	明治維新の政治・経済政策	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴が理解できる	
		4週	立憲政治の開始	近代日本の政治体制の特質について理解できる	
		5週	日清・日露戦争	政党政治の発展過程について理解できる	
		6週	不平等条約の改正/韓国併合	明治期の国際関係について理解できる	
		7週	日本の産業革命	日本における資本主義や産業の発展過程や特徴理解できる	
		8週	前期中間まとめ 日本の近代化の始まり		
	2ndQ	9週	第1次世界大戦と国際協調の時代	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		10週	日中戦争まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		11週	日中戦争から敗戦まで	今日の国際的な政治の仕組みの背景が理解できる	
		12週	歴史で議論をする	歴史で議論が実践できる	
		13週	ドキュメンタリーの鑑賞法	ドキュメンタリーを鑑賞することができる	
		14週	読書による自学自習法	要約を行うことができる	
		15週	近代日本の意味		
		16週			
後期	3rdQ	1週	後期ガイダンス 「現在」への道のり		
		2週	占領期の政治	戦後期の政治の背景について理解できる	
		3週	日本国憲法体制と55年体制	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		4週	自民党による国家意思決定システム	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		5週	自民党政権の安定	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		6週	高度経済成長	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 環境問題が生じることになる経緯を位階できる	
		7週	自民党政権の動揺と55年体制の崩壊	現代の政治状況生成の歴史的背景を理解できる	
		8週	後期中間まとめ 現代社会のしくみ		
	4thQ	9週	1990年代以降の特徴～バブル崩壊/情報通信技術の発達とグローバル化～	現代の経済状況生成の背景を理解できる 政府の経済政策が歴史に及ぼした影響を理解できる 地球的な経済格差の生じた経緯を理解できる	
		10週	政権の流動化と国内改革の時代	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		11週	近年の政治・経済状況	グローバルな時代における政治・経済の取り組みを理解できる	
		12週	英語による歴史学学習法①	英語による歴史学習方法を理解できる	
		13週	英語による歴史学学習法②	英語による歴史学習方法を理解できる	
		14週	「現在」を歴史的に考える		

		15週	歴史と人文社会科学の意味	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	4	前3,前7
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	4	前7
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	前7
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4	前3,後6,後9
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後3,後4,後5,後6,後7,後9
				現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4	前7,後9
			地歴・公民	社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4	前7
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4	後6,後9,後10,後11
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4	後9,後10,後11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0